

# 久慈港長期構想検討委員会

## これまでの経緯

(第1回委員会・幹事会、第2回幹事会、第3回幹事会での主要意見と対応方針(案))

令和7年1月28日(火)



## 1. 第1回委員会・幹事会における主要意見と対応方針



No.	意見	対応方針(案)	対応する取組
1	物流等を含めた全体的な視点で検討する必要がある。		
2	貨物の集荷策を検討することで、岸壁等の港湾施設計画につながり、地域の活性化促進にもつながる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>既存貨物である原木、非金属鉱物の取扱増加やモーダルシフトに対応するため、貨物の適正配置等によるふ頭全体の効率化を目指す。</li> <li>立地企業に対応する用地の造成・整備により、投資促進や雇用創出を目指す。</li> <li>既存貨物の取路拡大等による取扱増加に対応するため、大型バルク船に対応した施設整備を行い、輸出入拠点の形成を目指す。</li> </ul>	物流・産業 【取組①】 【取組②】
3	現状貨物の取扱増加に向けた取組の検討をお願いしたい。		
4	三陸沿岸道路の全線開通により車・物の流れに変化が見られ、今後も変わっていくと思われる。久慈港の整備においては、陸上輸送から海上輸送へのモーダルシフトへの対応策が必要になる。		
5	八戸港や県内港湾との関係、役割を意識していく必要がある。		
6	久慈市沖洋上風力発電事業に伴う基地港湾としての役割については、海域の状況を共有しながら検討していく必要がある。		
7	再生可能エネルギーの有効利用・安定供給の観点から、臨港地区を中心に水素・アンモニアの生産、貯蔵、利活用に携わる企業を誘致を行っていききたい。	<ul style="list-style-type: none"> <li>風力発電事業計画に対応する風力発電設備の物流拠点や次世代エネルギーの利活用拠点の形成により、新たな地域産業・雇用の創出を目指す。</li> </ul>	物流・産業 【取組③】
8	新たな事業によって久慈港の有効利用につなげていきたい。		
9	静穏海域を活用した水産業の柱となるギンザケの養殖について、関係機関と連携して推進していききたい。	<ul style="list-style-type: none"> <li>湾口防波堤の整備による静穏海域の活用により、ブランド養殖等による地場産品の輸移転拠点形成を目指す。</li> </ul>	物流・産業 【取組④】
10	久慈湾内の漁場の磯焼け対策や藻場の回復に向けた取組を、関係機関と連携して推進していききたい。		
11	水質改善、海岸漂着物対策を含めた海洋環境の保全が今後の久慈港を考える上では重要と考える。	<ul style="list-style-type: none"> <li>藻場造成等のブルーカーボン、水質観測、生物共生型構造物の検討を行い、良好な港湾環境及び生物生息環境の創出に取り組む。</li> </ul>	環境 【取組⑥】

: 物流・産業
  : 環境
  : 賑わい・交流
  : 安全・安心
  : その他

# 1. 第1回委員会・幹事会における主要意見と対応方針



No.	意見	対応方針（案）	対応する取組
12	国内クルーズ船社の船が接岸できる岸壁整備をお願いしたい。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・多様なクルーズ船型に対応する連続バースの運用により、クルーズ船の寄港拡大を図る。</li> <li>・外国船社の寄港にも対応した受入環境整備について検討する。</li> </ul>	賑わい・交流【取組⑧】
13	クルーズ船受入れのためのCIQ施設の充実をお願いする。		
14	周遊ルート・客層などの全体像から見た久慈港の役割を意識する必要がある。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・県内観光地や近隣市町村と連携した三陸地域の魅力を発信する観光メニューづくりに取り組み、観光資源等の受入体制の強化を目指す。</li> </ul>	賑わい・交流【取組⑨】
15	人口減少の中にあって交流人口を拡大して地域振興を図っていくためには、三陸の観光が重要と考えているので、関係機関と連携して観光地域づくりを推進していきたい。		
16	みなとオアシスに認定されている「もぐらんぴあ」は震災復興の情報発信施設にもなっていることから、交流人口拡大に向けて今後も賑わい・交流拠点としての機能を強化していきたい。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「みなとオアシス」と「道の駅」等の賑わい拠点を連携し、地域振興や交流人口の拡大を目指す。</li> <li>・地場産品・地場産業を生かした企画づくり等により、漁観連携による地場産業の振興を目指す。</li> </ul>	賑わい・交流【取組⑩】
17	湾口防波堤整備に伴う静穏海域を活用したマリンスポーツ等の体験型アクティビティや養殖施設の見学・刺し網漁体験の実施を考えている。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・湾口防波堤の整備による静穏海域の活用により、マリンスポーツ、釣り、海岸利用等の海洋性レクリエーション機能の充実を目指す。</li> </ul>	賑わい・交流【取組⑪】
18	砂州（久慈川河口）の観光・レクリエーション資源としての活用を検討し、海岸利用についてもプランがあると良い。		
19	地域住民・若い世代が港に親しみをもちてもらうための空間の醸成やイベントなどによる賑わいの創出について検討する必要がある。		
20	湾口防波堤については、津波・高潮に対する防災機能の他、静穏度の向上による船舶避難のための泊地の確保、船舶の安全航行、荷役作業の安全性向上も期待されることから、早期の効果発現を期待している。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・港湾背後地域の津波浸水範囲の狭域化や港内静穏度の向上が期待される湾口防波堤を早期に整備し、防災機能の強化を目指す。</li> </ul>	安全・安心【取組⑬】

  : 物流・産業
   : 環境
   : 賑わい・交流
   : 安全・安心
   : その他

2

# 1. 第1回委員会・幹事会における主要意見と対応方針



No.	意見	対応方針（案）	対応する取組
21	広域的な防災拠点、物資供給拠点となるための耐震強化岸壁の整備をお願いする。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・災害時におけるリダンダンシー確保の観点から耐震強化岸壁を整備し、近隣港湾との広域的な緊急物資ネットワークの形成を目指す。</li> <li>・様々な災害による地域産業への影響を低減させるため、港湾の重要機能が最低限維持できるよう港湾BCPの充実に取り組む。</li> <li>・東日本大震災の教訓として、地域住民に対する津波防災教育や観光客、港湾労働者等に対する避難経路や避難場所の周知により、津波防災地域づくりを目指す。</li> <li>（耐震強化岸壁の位置・規模は港湾計画で検討）</li> </ul>	安全・安心【取組⑭】
22	耐震強化岸壁の位置や規模について、情勢変化を踏まえ検討していく必要がある。		
23	湾口防波堤や耐震強化岸壁などインフラをしっかり構え、安全安心な港湾を継続、維持していく必要がある。		

  : 物流・産業
   : 環境
   : 賑わい・交流
   : 安全・安心
   : その他

3

## 2. 第2回幹事会における主要意見と対応方針



No.	意見	対応方針（案）	対応する取組
1	貨物需要があつて岸壁整備、用地整備に繋がるので貨物需要の裏付けが必要になる。整備局においては、2024年問題に伴うモーダルシフト需要（新規貨物の掘り起こし）を調査している。	・貨物量推計調査を実施したところではあるが、港湾計画改訂作業の中でも引き続き企業ヒアリング等を実施しながら検討していく。	物流・産業 【取組①】 【取組②】
2	曳船、起重機船等の作業船溜まりの確保が建設業界の重要な課題となっており、行政側への要望として求められている。ゾーニングの中に港湾建設に必要な作業船も配慮してもらいたい。	・ゾーニングでは、諏訪下地区・半崎地区を作業船溜まりに想定している。 ・そのほか、洋上風力発電関係の船舶（メンテナンス船等）の配置も必要になる。 ・具体については港湾計画改訂作業の中で検討する。	物流・産業 【取組⑤】 港湾利用ゾーニング
3	近年の風車大型化に合わせて港湾整備が必要になると思われるので、本省の検討会結果を反映してとりまとめいただきたい。	・今後の技術開発動向や国の検討状況を踏まえて、拠点形成に向けた検討を進める。	物流・産業 【取組④】
4	湾口防波堤の設置エリアにもブルーカーボンの検討を反映いただきたい。	・湾内の中で船舶航行に影響の無い範囲での藻場造成や生物共生型港湾構造物について今後検討を行っていくこととする。	環境 【取組⑥】
5	半崎地区に想定している体験学習エリアは漁業権と重なる場所なので懸念している。舟渡海水浴場のほうが適地と考えられるのでエリアに加えることで検討いただきたい。	・半崎地区については体験学習エリアからは除外し、舟渡海水浴場付近を体験学習エリアに想定した。	賑わい・交流 【取組⑪】
6	防波堤の整備によって浸水範囲がほぼなくなる図となっているが、県が公表された最新の浸水想定範囲との関係性はどのようになっているのか。今後の避難活動に影響することも懸念している。	・長期構想の中では、湾口防波堤の整備効果を検証した結果として、令和3年事業評価監視委員会資料に掲載されているシミュレーション結果を引用している（あくまで港湾整備事業による防災機能強化ということで掲載）。 ・岩手県で公表している浸水想定図は各種構造物の地震による沈下や津波越流による破堤を想定したものであり、実際はハード対策のみならずソフト対策（津波教育や避難経路・場所の周知等）による対応も併せて実施していくことが必要と考えている。	安全・安心 【取組⑬】

: 物流・産業
  : 環境
  : 賑わい・交流
  : 安全・安心
  : その他

## 2. 第2回幹事会における主要意見と対応方針



No.	意見	対応方針（案）	対応する取組
7	津波避難ビル等の整備についても検討することとしているが、洋上風力発電設備建設に係る事務所等が必要となるので、その機能を津波避難ビルに付加することはできるのか。	・第2回幹事会后、改めて確認したところ、久慈市では既に津波避難ビルとして5棟の既存施設を指定済みであることから、新たな整備までは長期構想の中で言及する必要はないと判断した。 ・港湾利用者・港湾労働者の避難については避難経路・場所の周知等ソフト対策でカバーすることを基本とする。	安全・安心 【取組⑭】
8	湾口防波堤の整備後は、半崎地区の東側で錨地が確保できる図になっているが、避泊船が増える中で、荷役施設等に影響が無いように考慮する必要がある。	湾口防波堤整備完了が見えてきた段階で、その時の利用船舶、荷役施設等の状況を見ながら調整することとする。	—
9	ロードマップの短期における取組が先の港湾計画改訂に盛り込む主な内容となるため、物流・産業や安全・安心の分野の取組がメインになると考えられる。港湾計画への位置づけも視野に検討いただきたい。	主に物流・産業、安全・安心の分野における取組内容を短期・中期の取組としてロードマップを作成した。	ロードマップ

: 物流・産業
  : 環境
  : 賑わい・交流
  : 安全・安心
  : その他

### 3. 第3回幹事会における主要意見と対応方針



No.	意見	対応方針（案）	対応する取組
1	素案第2章（2）久慈港の戦略と取組みの方向性の中で、戦略については平成28年に岩手県で策定した「岩手県港湾利用促進プラン」と整合は図られているのか。	・戦略については、「岩手県港湾利用促進プラン」の内容も参考にしながら設定している。当該プランの内容を概ねカバーした内容としている。	—
2	素案第3章（1）多様な物流・産業ニーズに対応する物流空間づくり 取組①・②の中で、将来的に既存貨物である原木や非金属鉱物の取扱増加が見込まれるといった点について、増加が見込まれる裏付けについて整理されているのか。将来的に大きな船が寄港する見込みについて、裏付けは整理されているのか。	・取扱貨物量増や船舶の大型化の見込みについては、貨物量推計を行い設定している。 ・港湾計画変更内容については、既の実施済みの貨物量推計結果を用いて整理するとともに、必要に応じて追加ヒアリングすることも想定している。	物流・産業 【取組①】 【取組②】
3	素案第3章（1）多様な物流・産業ニーズに対応する物流空間づくり 取組①の中で、2024年問題について触れているが、京浜地区に陸送されている県北産品について、現状どのくらいの量が陸送されているのか把握はされているか。	・京浜地区への陸送貨物量については、ヒアリング等で概ねの推計はしている。	物流・産業 【取組①】
4	素案第4章 港湾利用ゾーニングの中で、基地港湾整備を想定しているのは諏訪下地区、半崎地区のどちらを想定しているのか。	・現状浮体式洋上風力発電建設に必要な港湾機能が明確にはなっていないので、諏訪下地区と半崎地区の両睨みで考えている。 ・必要な港湾機能が明確になってきた段階で、港湾計画への落とし込み内容は検討する。	物流・産業 【取組④】 港湾利用ゾーニング
5	素案第3章（1）多様な物流・産業ニーズに対応する物流空間づくり 取組①・②の中で、貨物の流通を考えたときに、他の港との相互連携や役割分担は考慮しているのか。	・県内港湾でも役割分担について求められているところもあり、久慈港としては、現状・将来推計も含めバラ貨物の取扱いがメインとなると考えているが、他の港湾とのバランスも見ながら、港湾計画については検討していく必要があると考えている。	物流・産業 【取組①】 【取組②】

  : 物流・産業
   : 環境
   : 賑わい・交流
   : 安全・安心
   : その他

### 3. 第3回幹事会における主要意見と対応方針



No.	意見	対応方針（案）	対応する取組
6	素案第3章（1）多様な物流・産業ニーズに対応する物流空間づくり 取組⑤の中で、将来的には掲載している図の形で基地港湾を目指していくと思うが、現在使用している岸壁と競合すると考えている。	・諏訪下地区については、将来イメージとして拡張部がメインの荷役岸壁・ふ頭用地になることを想定しているのので、空いた既存の岸壁に作業船などを配置することを考えている。	物流・産業 【取組⑤】
7	物流・産業面については、貨物需要や荷主・船社の意向が港湾計画改訂に当たって非常に重要なポイントになる。具体的なニーズを踏まえながら、モーダルシフトへの対応、バルク貨物の拠点形成などについて検討していければと考えている。	・港湾計画改訂作業においては、貨物量推計の結果を踏まえつつ、必要に応じて企業ヒアリング等も重ねながら内容を精査していく。	物流・産業 【取組①】 【取組②】
8	素案第3章（2）ブルーインフラを展開する環境空間づくりについて、生物多様性の保全と温室効果ガス吸収源の創出という二つの観点があると思われるので、項目立てについて検討いただきたい。	・「温室効果ガス吸収源の創出」を取組として追加し、2つの項目立てに変更した。	環境 【取組⑥】 【取組⑦】
9	クルーズ船受入強化について、今後大型化されるにつれて、係船柱の強化や防舷材の大きさの見直しなどで対応していくものと考えているがその点の考えを教えてください。	・まずは連続バースの運用で対応できるクルーズ船への受入体制を充実させる必要があると考えている。 ・必要に応じて係船柱の強化等も実施していくことが想定される。	賑わい・交流 【取組⑧】
10	今後のクルーズ船の受入見込みについてはどのような方向で考えているのか。ハード整備を想定した場合、旅客人数がある程度見込めないかと難しいと考えている。受入環境の整備としては、ハード整備の他、ガイドなどの人材育成も必要になってくるので一緒に考えていければと考えている。	・クルーズ船誘致に向けた観光資源の強化も進めながら受入環境の強化を図っていきたいと考えている。 ・現状の岸壁スペックから言うと、宮古港に入るような大型船の受入は難しいので、まずは小中型クルーズ船を対象とした受入環境整備を考えていきたい。	賑わい・交流 【取組⑧】
11	クルーズ船受入については、特定港湾への寄港集中が課題となってきているので、寄港地の分散を図る観点からも、地方の港湾での受入体制構築が重要なポイントになると考えている。	・素案第3章（3）に掲載している取組を推進し、受入体制を構築していきたいと考えている。	賑わい・交流 【取組⑧】 【取組⑨】

  : 物流・産業
   : 環境
   : 賑わい・交流
   : 安全・安心
   : その他

### 3. 第3回幹事会における主要意見と対応方針



No.	意見	対応方針（案）	対応する取組
12	防災面については、緊急物資ネットワークを構築する上で、耐震強化岸壁だけでなく、背後圏のアクセスとの連携も重要になってくるので、港湾計画改訂に当たっては、アクセス面と耐震強化岸壁との連携についても考慮した上で、計画に位置付けられれば良いと考えている。	・港湾計画改訂作業においては、ご指摘いただいた内容についても検討しながら耐震強化岸壁の位置や規模について検討していきたいと考えている。	安全・安心 【取組⑭】
13	本省港湾局においても、港湾計画改訂に当たって引き続き技術的な支援をさせていただければと考えている。	—	—

<input type="checkbox"/>	: 物流・産業	<input type="checkbox"/>	: 環境	<input type="checkbox"/>	: 賑わい・交流	<input checked="" type="checkbox"/>	: 安全・安心	<input type="checkbox"/>	: その他
--------------------------	---------	--------------------------	------	--------------------------	----------	-------------------------------------	---------	--------------------------	-------